第 6 章　第 2 岩陰の現状

上黒岩第 2 岩陰遺跡は，上黒岩二番耕地（通称岩屋）に所在する。面河川と久万川が合流する御三戸嶽から久万川を 2 km遡った所に上黒岩遺跡があるが，さらに 500 m南に遡った川の蛇行点の谷奥を山の中腹まで登ったところに第 2 岩陰遺跡が位置する（図 2）。現在，谷部の麓には林道がめぐっており，そこから谷間の尾根筋をかき分けて登れば岩陰が見える。

岩陰は上の方に庇状に石灰岩が張り出し，根本が窪んだ形状で，3，4 人程度が雨露をしのぐ程度の広さであり，現状では数畳分程度の畑の跡が残る。また，ふた抱えほどの巨大な落石が残っている（図 15・写真 9 -28，29）。上黒岩遺跡近隣と同じ所有者の地所であり，以前はこの場所に芋壷を埋めて冬越しをしたともいわれている。

1962 年 10 月に試掘調査が行われており，地表から 15 cmの黒土層からは縄文時代早期の押型文土器や剥片石器，凹石，カワニナなどが発見されているが，遺物の数は少数である。遺物は現在，慶應義塾大学文学部旧江坂研究室に保管されている。

岩陰部は南向きに張り出して開口し，その前庭部にも 20 m程度の長さに幅 5 mほどの平坦地がある。その南は急斜面で落ち込み，約 100 m下の久万川をはるか下に望む。

2005 年度に，小林・兵頭・遠部で平板測量により，現状の略測を行った。遺跡は畑地付近に試掘の跡と考えられる柔らかい部分を残すが，雨だれラインの内側に充分な堆積が残っており，面積は小さいながらも縄文早期の包含層の遺存が期待でき，遺存状態は良好と思われる。

（小林謙一）

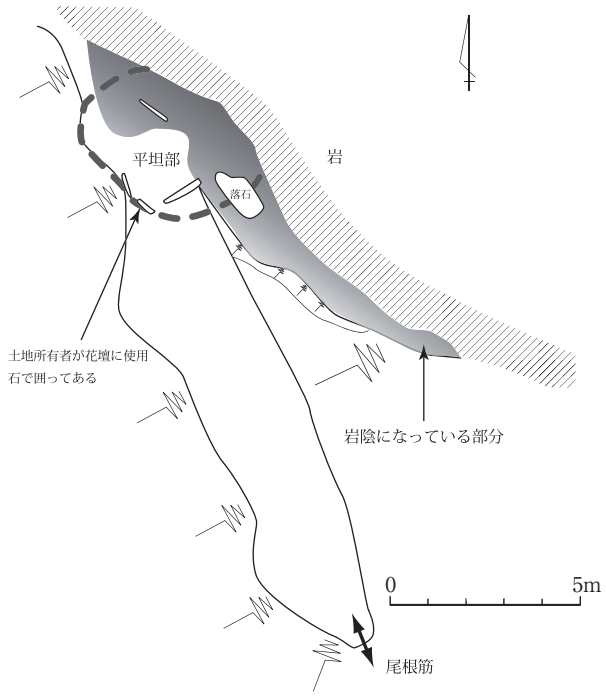

図 15　第 2 岩陰（S = 1 /200）